

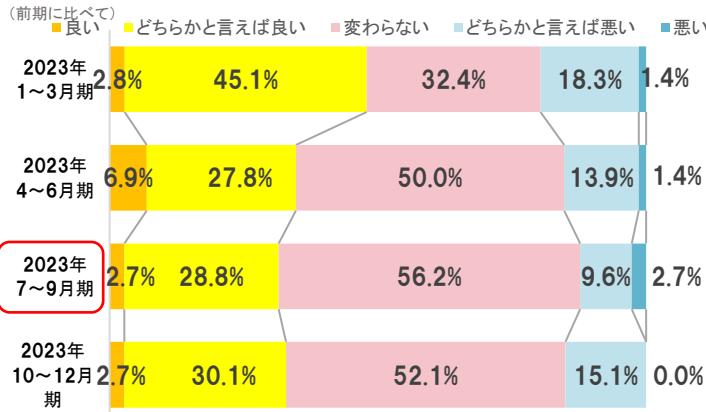
神戸商工会議所 経営経済四半期動向調査 (2023年7~9月期) 調査結果

●調査対象 神戸商工会議所会員73事業所 / 対象106事業所
●調査時期 2023年9月4日~21日

●調査内容 1~2: 定期調査 / 3~4: 付帯調査

1. 各社の業況について

◆今期(7~9月)は、「良い」「どちらかと言えば良い」が3割を占めた。「悪い」「どちらかと言えば悪い」は1割強に留まっているものの、「変わらない」が6割弱を占めており、足踏み状態の事業所も多い。
◆来期(10~12月)は、前回予測に比べ「良い」「どちらかと言えば良い」が10ポイント以上増加しており、先行きについても明るい見通しが増加。



前期との比較 4~6月 →7~9月	良い / どちらかと言えば良い		どちらかと言えば悪い / 悪い	
	34.7%→31.5%	▲3.2	15.3%→12.3%	▲3.0
主な業種	機械設計、百貨店、旅行、自動車小売、食品製造、運輸 など		靴、印刷、ファッション小売 など	

(参考) 前回調査時 2023年7~9月期 予測



2. 各社・業界での特徴的な動きなど

(1) 個人消費の動向

- 夏休みによる人出の増加で、売上も前月よりプラスに転じている。【不動産】
- コロナが5類に移行し人流・物流とも好調に推移している。【運輸】
- インパウンドの急激な回復による都市部でのホテルの客室不足と高騰が顕著。【旅行】
- 猛暑や物価高、年金支給額減少で、高齢者の来店・購買力が低下。【ファッション小売】
- 業務用は回復するも、コロナ前まで戻らず。家庭用は買い控えがみられる。【清酒製造】

(2) 供給制約

- 卵は確保できつつあるが、バターの確保が難しくなっている。【菓子製造】
- 不漁により原材料が高騰もしくは入荷できない状態。【食料品小売】

(3) 原材料・資源価格等コストの高騰・円安

- 食品の輸入販売が主力のため、為替動向を注視している。【総合商社 / 飲料卸売】
- あらゆるコスト上昇が収益を圧迫。【靴 / 食品加工 / 建築材料卸売 / 化成品製造ほか】
- 物流経費の上昇が利益を圧迫。価格転嫁も困難。【医療機器卸売】
- 燃料価格の大幅上昇により、船舶の運航コストに甚大な影響を受けている。【運輸】

(4) 価格転嫁

- 各工種の単価引き上げ交渉を、粘り強く行っている。理解も深まりつつある。【総合建設】
- 価格転嫁を行ったものの、採算の改善には時間を要する。【食品製造 / 電気機械製造】
- 紙媒体の需要減で値上げが進まず、利益確保がより一層厳しくなっている。【印刷】

(5) 人手不足

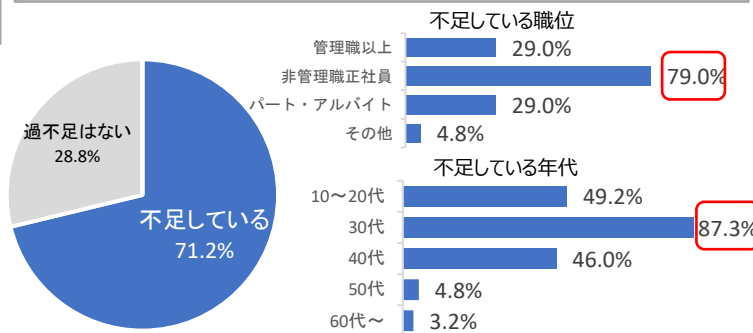
- 消費動向はコロナ前に戻りつつあるが、人材確保が難しい状況。【商店街】
- 採用に苦戦しており、人手不足感が大きい。【設備工事/商品検査/旅館 / 総合商社】
- 大手が高校生の採用に手を伸ばしつつあり、窮屈な採用になり始めている。【食品製造】
- 慢性的な人員不足により定休日を複数回設ける必要がある。【食肉小売・飲食店】
- 技術者不足による施工能力の低下や失注が発生。【総合建設 / 設備工事 / 土木工事】

(6) その他

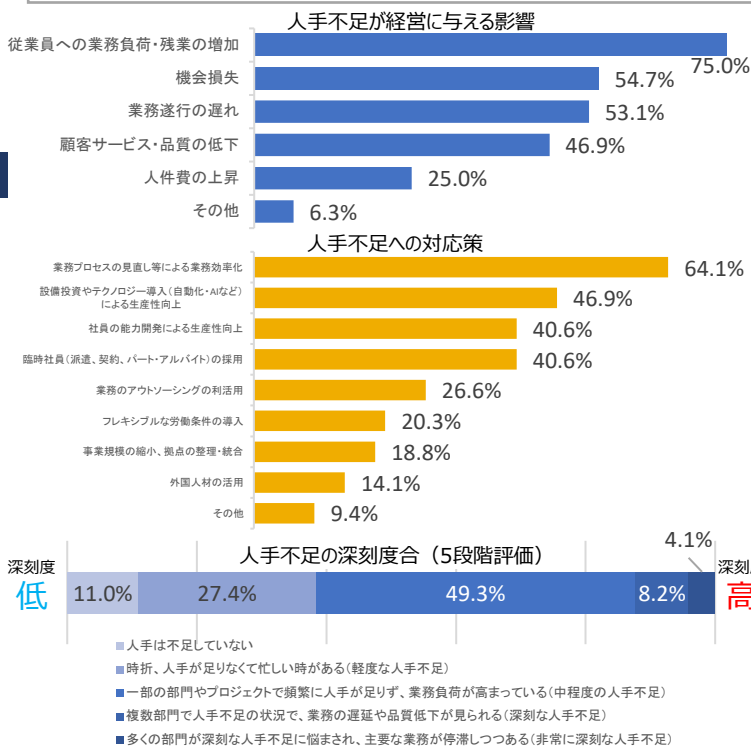
- グローバル生産体制について、各地の生産品目の見直しをはじめ、拠点間のバランスやBCPを考慮しながらトータルコスト低減を目標とした再編を進めている。【工業用ゴム製品製造】
- 有力船主を中心に、新船建造や中古船取引に前向きな動きが見られる。【原動機製造】
- 公共工事において工期に4週8休を求められる入札案件が増えてきた。【電気工事】
- インボイス制度導入による今後の取引の動向を注視。【ホテル】
- 2024年問題により輸送能力が不足し、物流コストが高騰する可能性を懸念。【食品製造 / 鉄鋼 / 総合商社】
- 関西万博を控え、建築業の人手不足による工期の不明確と価格高騰を懸念。【不動産】

3. 人手不足の現状と対策について

社員の過不足について尋ねたところ、「不足している」が71.2%、「過不足はない」が28.8%と、7割の企業で人手が不足していることが分かった(「過剰である」との回答は0)。不足している職位としては「非管理職正社員」が79.0%、不足している年代は「30代」が87.3%と、割合が突出していた(職位・年代は複数回答)。

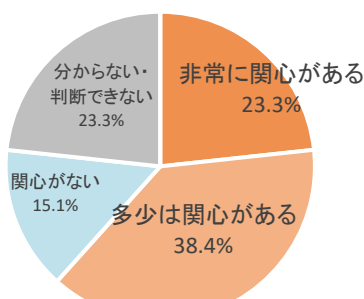


人手不足が経営に与える影響について尋ねると、「従業員の業務負荷・残業の増加」が75.0%、次いで「機会損失」が54.7%、「業務遂行の遅れ」が53.1%、「顧客サービス・品質の低下」が46.9%と続いた(複数回答)。
人手不足への対応については、割合が高い順に「業務プロセス見直し等による業務効率化(64.1%)」、設備投資やテクノロジー導入による生産性向上(46.9%)、「社員の能力開発による生産性向上(40.6%)」、「臨時社員の採用(40.6%)」であった(複数回答)。
人手不足の深刻度合では、1割以上の事業所が深刻な人手不足に陥っており、業務遅延や品質低下、主要業務の停滞が発生している。



4. 2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)について

大阪・関西万博へのビジネスとしての関心度合について尋ねたところ、「非常に関心がある」と「多少は関心がある」が全体の6割強を占めた。



万博開催に期待する声・意見

- 国内外からの来訪客に神戸まで来てもらえるよう、短期間でインフラ整備や街の美化に取り組んでほしい。
- 開催を契機に、今後の日本の中長期的な経済成長に向けた戦略的な施策として、規制緩和や支援策等を実施してほしい。
- 関西への集中的な来客が期待される一方で、貸切バスの乗務員、台数の不足なども予想され、水路の検討や他行政区との輸送手段連携など、混乱を防ぐ手立てが必要。